

日中文章の比較

—三人称指示とゼロ照応の対応関係を中心に—

王 湘榕

1. 研究動機及び目的

文章の展開に関して、指示表現 (reference) は重要な役割を示している¹⁾。従来、文章論的指示表現に関する研究は単一言語を考察対象にするものが多く、異なる言語同士の間で比較するものが少ない。しかし、異なる言語を比較することにより、考察対象となる言語の中の指示表現が文章展開に関して、いかなる特徴を持つかをより明確に説明することができるのではないだろうか。

そこで、日中の指示表現の三人称指示とゼロ照応の対応関係を比較することにより、日中文章展開の違いを明らかにすることを本研究の目的とする。

本研究で使う三人称指示とは、日本語の場合は「彼」、「彼女」とその複数形、中国語の場合は「他 (ta)」、「她 (ta)」とその複数形のことを示し、文章中の人物を指示する用法であるとする。なお、日本語では、「彼」、「彼女」などは代名詞として扱われているが、今回は三人称指示という呼び方にする。

2. 先行研究

2.1 三人称指示・結束性と文章の展開

2つ以上、複数の文が1つの意味的にまとまるテキストをなすとき、その各文の間には何らかの「つながり」が存在する。Halliday & Hassan (1976) はこの「つながり」を結束性と呼び、「指示表現 (reference)」を結束性を表す1つの手段であると述べている。

Halliday & Hassan (1976) は「指示表現 (reference)」を、「人称詞」、「指示詞」、「比較語」に分けた。さらに、「人称詞」について「テキストでは一、二人称形は一般的外界照応的 (exophora) で、三人称形だけが結束的である」と述べている。

また、Halliday & Hassan (1976) は三人称形の特徴について、累加的に逆行照応的であるとしている。例えば、テキストの始めに John という単語が出れば、そのあと John が先行詞となって、そのあとに he, him, his が反復として出現する。それらの反復はすべて元の John に相当するため、この表現方法は、結束性の構成に重要な影響を与えていると述べている。

2.2 中国語における文章中の三人称指示について

中国語における三人称指示としては、「他 (ta)」、「她 (ta)」、「它 (ta)」とその複数形「他們 (tamen)」、「她們 (tamen)」、「它們 (tamen)」などがある。徐 (1990) は、「代名詞「他 (ta)」が出現すること

で、読者の頭にある人物像と代名詞「他 (ta)」が結びつきやすいとしており、さらに、文章中、代名詞「他 (ta)」の指示範囲が小さいほど、代名詞「他 (ta)」による連続性が大きいとしている。それに対して、代名詞「他 (ta)」の指示範囲が大きいほど、代名詞「他 (ta)」による連続性が小さい」という効果があると述べている。

2.3 日本語における文章中の三人称指示について

日本語における三人称指示として「彼、彼女、彼ら」があるが、「彼、彼女、彼ら」を三人称指示と呼ぶことに違和感があると述べている論文は佐久間 (1992:32) と堀井 (1978:146) などがあげられる。例えば、「彼」について佐久間 (1992:32) は次のように述べている。

他称の「人代名詞」というと、本来のそういう専門語が見出されないような現状で、「かれ」のような単語は、一般に口語として使わない、一種の翻訳くさいところのあるものです。

さらに、堀井 (1978:146) 三人称について次のように指摘している。

三人称は客観的場によっていて、人称の相関関係を示さない。三人称は、それが誰であっても、常に客観的指示に備えられ得るものである。従って、人称代名詞の形式的分類においては、三人称は全く「私」や「あなた」とは違っている。それは三人称の機能と性質においては異なっている。「彼」「彼女」のような諸式は、固有名の省略を示す代替としてしかあらわれない。「太郎は病気だ。彼は熱がある」のように。三人称代名詞は陳述の材料を置き換えたり、相互に結び付けたりする。

このように、「彼、彼女」などは現代日本語ではそれほど自由に用いられるものとして成立しているのではないことが分かる。例えば、指示対象が年齢、性別、職業などによって、ある特定の層に限られ、使われる場面にも明らかに様々な制約がある。

2.4 ゼロ照応が成立する条件

指示表現の中に、照応詞がゼロの場合、「ゼロ照応」(以下「」を略す) と呼ぶ。

今井 (1992) は、ゼロ照応について、「情報は、そのままの形で反復されるよりむしろ、より経済的な

手段が選ばれるとしており、ゼロ照応は情報を伝達するために、経済的な手段として使われる」という風に、ゼロ照応の機能について述べている。

また、ゼロ照応が成立するための条件について、陳(1987)は、先行詞が後続句に対して持つ連続性と照応詞が先行句に対して持つ継続性が、いずれも強いほどゼロ照応の成立を容易にすると論じている。陳(1987)の調査によると、中国語では最も強い連続性を持つ先行詞が主語であり、次に、存現動詞、他動詞の目的語が挙げられる。

今井(1992)は、陳(1987)の研究に基づき、ゼロ照応が中国語と日本語ではいかなる条件のもとに成立するか、対照的に検討を行った。その結果、中国語では、先行詞と後続句の内容との意味関係、すなわち意味文脈に依存し、日本語では、接続形式などによる文構造、および視点の条件に依存するという日中語間の大きな違いについて論じた。さらに、これらの違いから、中国語では主題が一定するよりむしろ次々と変わる可能性もあり、日本語では、同一主題が連続しやすい、という文章作成上の傾向の違いが検証された。

以上、日中両言語の三人称指示の特徴とゼロ照応についての先行研究をまとめた。本研究では、三人称指示が使われていない、ゼロ照応である日本語の文章とそれを中国語に訳されたものの三人称指示との対応関係に着目し、考察する。

3. 分析の材料及び考察

本研究では、小説『ノルウェイの森』(村上春樹著、1991、講談社)(以下、日本語テキストと呼ぶ)の冒頭から第三章までとその中国語訳『挪威的森林』(賴明珠訳、2003、時報出版)(以下、中国語テキストと呼ぶ)に出現した三人称指示を取り上げた。なお、今回は日本語の「彼」、「彼女」とその複数形に対応する「他(ta)」、「她(ta)」(以下、(ta)を略す)とその複数形を分析対象とした。

その結果は表1と表2の通りである。

表1 日本語テキストと中国語テキストに出現した三人称指示の数

	三人称指示
日本語テキスト	277
中国語テキスト	354

まず、表1から、中国語テキストの三人称指示が354例に対して、日本語の三人称指示が277例で、中国語テキストの方が日本語より77例多いということが明らかになった。つまり、それは中国語テキストでは、三人称指示が使われていたが、日本語テキストでは使われていなかった例が77例あるということにほかならない。そこで、日本語では、三人称指示の代わりに、どんなものが使われているのか明らかにするために、その77例を日中のテキストと比較してみた。すると、日本語テキストにおいて、その77例のうち、4例が指示詞(この、その)で、73例が例(3)のようにゼロ照応(ϕ)で対応することが分かった。

- (3)直子が ϕ クラス・メートの女の子をつれてきて、四人で動物園に行ったり、プールに泳ぎに行ったり、映画を観に行ったりした。(ノルウェイの森、P42)
直子帶著她的同班同學一起來，四個人到動物園去，或去游泳，看電影。(挪威的森林、P34)

表2は、日本語テキストでは三人称指示「彼/彼女」が使用されていないのに、中国語テキストでは三人称指示「他/她」に訳されて、日本語のゼロ照応に当て嵌まる73例を、場面ごとに言及された「登場人物」(以下、「」を略す)の人数ごとに集計したものである。表2について述べる前に、まず本研究の登場人物の定義について説明する。

本研究で使用したテキスト「ノルウェイの森」の中に、実際にその場面に登場していない、名前だけが言及された場合がある。

- (4)キズキにはたしかに冷笑的な傾向があつて他人からは傲慢だと思われることも多かったが、本質的には親切で公平な男だった。三人でいると彼は直子に対しても僕に対しても同じように公平に話しかけ、冗談を言い、誰かがつまらない思いをしないようにと気を配っていた。

例(4)では、「他人」という名前は言及されているが、「他人」の顔、性格などの情報が一切なく、実際に登場していない人物が存在している。一般的に、「他人」というような存在は登場人物としてカウントされない。

しかし、筆者は日本語のゼロ照応と中国語の三人称指示との関係において、「他人」のような存在も「キズキ」、「直子」、「僕」と同様に、深く影響を及ぼしていると考える。そこで、「他人」のような存在も登場人物としてカウントする。

表2 日本語のゼロ照応の用例に現れた登場人物の数

	登場人物1人	登場人物2人	登場人物3人	合計
日本語のゼロ照応	11例(15.1%)	51例(69.8%)	11例(15.1%)	73例(100%)

表 2 は、日本語テキストでは三人称指示「彼/彼女」が使用されていないのに、中国語テキストでは三人称指示「他/她」に訳された日本語のゼロ照応に当て嵌まる 73 例を、前述した登場人物の定義に基づきまとめたものである。

表 2 から、登場人物は 1 人の場合が 11 例(15.1%)、2 人が 51 例(69.8%)、3 人 (以上) が 11 例(15.1%) あることが分かった。以上の結果から、2 人の場合に、日本語テキストでは三人称指示が使用されていないのに、中国語テキストでは三人称指示「他/她」に訳されている用例が最も多いことが明らかになった。以下、登場人物の数を 1 人、2 人、3 人の場合に分けて、検討していく。

3.1 登場人物の数が 1 人の場合

(5) 毎朝六時に「君が代」を目覚めし時計がわりにして彼は起床した。あのこれみよがしの仰々しい国旗掲揚式もまるつきり役に立たないというわけではないのだ。そして服を着て洗面所に行き顔を洗う。φ1 顔を洗うのにすごく長い時間がかかる。φ2 歯を一本一本取り外して洗っているんじゃないかという気がするくらいだ。(P31、上巻)

毎日早晨六點〔君之代〕代替鬧鐘叫他起床。原來那炫耀誇張的升旗典禮也並不是毫無用處的。然後穿上衣服到洗手間去洗臉。他洗臉要花非常長的時間。令人懷疑他是不是把牙齒都一顆一顆取出來刷洗。(P26、上巻)

例 (5) から、日本語テキストの場合、「彼」は一回だけ使われたのに対して、中国語テキストでは、「他」が三回使われたことが分かった。

ここでは、日本語の φ1、φ2 に対応する中国語の「他」を省略してみると、例 (6) のようになる。

(6) 毎日早晨六點〔君之代〕代替鬧鐘叫他起床。原來那炫耀誇張的升旗典禮也並不是毫無用處的。然後穿上衣服到洗手間去洗臉。(他) 洗臉要花非常長的時間。令人懷疑(他) 是不是把牙齒都一顆一顆取出來刷洗。(P26、上巻)

例 (6) から、φ1、φ2 に対応する「他」が省略されても、内容は通じることが分かった。本研究では、登場人物の数が 1 人である例が 11 例あったが、そのうち 7 例は中国語の「他」が省略できると筆者は判断した。これは、登場人物の数が 1 人の場合、人物像は単純であり、先行詞が後続句に対して連続性が最も強いと考えられる。従って、登場人物の数が 1 人の場合は日本語と中国語両言語にとって、ゼロ照応が起きやすい環境であり、なぜ無対応の用例が 11 例しか見つからないかの原因でもあると筆者が考える。

次に、登場人物の数が 2 人の場合を見てみる。

3.2 登場人物の数が 2 人の場合

(7) 彼はいつも白いシャツと黒いズボンと紺のセーターという格好だった。(文 1) あたまたま丸刈りで背が高く、頬骨がはっていた(文 2)。学校に行くときはいつも学生服を着た(文 3)。靴も鞄も真っ黒だった(文 4)。見るからには右翼学生という格好だったし、だからこそまわりの連中も φ1 突撃隊と呼んできたわけだが本当のことを言えば彼は政治に対しては百パーセント無関心だった(文 5)。(P31、上巻)

他經常穿白襯衫 黑長褲和深藍色毛衣(文 1)。理光頭、個子高高的、顴骨凸出(文 2)。上學時總是穿學生制服(文 3)。皮鞋書包也都是黑色的(文 4)。一看就是一副右翼學生的模樣。因此周遭的傢伙也都叫他突擊隊，不過其實說起來他對政治是百分之百的不關心(文 5)。(P26、上巻)

例 (7) から分かるように、文 2 から文 4 までの文章の中に、日本語と中国語両方ともゼロ照応の形式で文 1 の「彼」、「他」を指示することができる。しかし、日本語テキストの場合、文 5 に「まわりの連中」(「周遭的傢伙」という登場人物が出てきたにも関わらず、ゼロ照応の形式で文 1 の「彼」を指示することができる。一方、中国語では文 5 の部分に「他」を省略すると、次の例 (8) になり、意味が原文と異なってくる。それは、文 1 の「他」と文 5 の「他」の間に、「周遭的傢伙(まわりの連中)」が挟まれているため、「他」で指示しないと、どの人物を特定しているかが分からなくなるからである。

(8)* 因此周遭的傢伙也都叫 φ1 突撃隊？(だからこそまわりの連中が突撃隊と呼ばれている)

次に、登場人物の数が 2 人の用例をもう一例見てみる。

(9) 僕は氷を買ってきて、ビニール袋を何枚かかさねて氷のうを作り、タオルを冷して φ1 汗を拭き、一時間ごとに熱を測り、φ2 シャツまでとりかえてやった。(P70、上巻)

我買了冰塊回來，用幾個塑膠袋套在一起作成冰袋，用冰冷毛巾為他擦汗，每一小時量一次體溫，連襯衫都幫他換。(P55、上巻)

例 (9) から、日本語の場合は三人称指示が一回も使われていないのに対して、中国語テキストでは、三人称指示「他」が 2 回用いられたことが分かった。

これは、日本語には授受動詞「やった」があるため、三人称指示「彼」を用いなくても、「僕」以外の人物が存在することが分かる。一方、中国語の場合、「他」を省略すると、例 (10) のように、「僕は自分のために氷を買ってきて、自分の熱を測り、自分のシャツまでとりかえた」という意味になってしまう。

このことから、例 (9) の「他」は省略不可能であることが分かった。

- (10) 我買了冰塊回來, 用幾個塑膠袋套在一起作成冰袋, 用冰冷毛巾 (為他) 擦汗, 每一小時量一次體溫, 連襯衫都 (幫他) 換。(僕は氷を買ってきて、ビニール袋を何枚かかさねて氷のうを作り、タオルを冷して汗を拭き、一時間ごとに熱を測り、シャツまでとりかえた。)

登場人物の数が 2 人の場合に、日本語では授受動詞の使用によって、ゼロ照応ができるが、中国語では「他/她」を使用しないと、意味が通じなくなる可能性がある。これは、日本語のゼロ照応の用例が 51 例もある理由だと考えられる。

3.3 登場人物の数が 3 人 (以上) の場合

次に、登場人物の数が 3 人 (以上) の用例を見ていく。

- (11) キズキにはたしかに冷笑的な傾向があつて他人からはφ1 傲慢だと思われることも多かったが、φ2 本質的には親切で公平な男だった (文 1)。三人でいると彼は直子に対しても僕に対しても同じように公平に話しかけ、冗談を言い、誰かがつまらない思いをしないようにと気を配っていた (文 2)。どちらかが長く黙っているとφ3 そちらにしゃべりかけて相手の話をうまくひきだした (文 3)。(P43、上巻)
Kizuki 確實有冷嘲熱諷的傾向, 別人往往會覺得他傲慢, 但他本質上是個親切而公正的人 (文 1)。三個人的時候他對直子和我都一樣公平地談話, 開玩笑, 用心不讓哪一邊覺得無聊 (文 2)。如果有一邊長久沉默時, 他就會對那一邊說話, 巧妙地引出對方的話題 (文 3)。(P35、上巻)

例 (11) から、日本語テキストでは、「彼」は 1 回しか使用されていないのに対して、中国語テキストでは「他」が 4 回用いられたことが分かった。

ここでは、日本語テキストのφ1、φ2、φ3に対応する「他」を省略することができるかについて考える。もし、日本語テキストのφ1、φ2、φ3に対応する「他」を略すと、例 (12) のようになる。

- (12) Kizuki 確實有冷嘲熱諷的傾向, 別人往往會覺得φ1 傲慢, 但本質上是個親切而公正的人 (文 1)。三個人的時候他對直子和我都一樣公平地談話, 開玩笑, 用心不讓哪一邊覺得無聊 (文 2)。如果有一邊長久沉默時, φ3 就會對那一邊說話, 巧妙地引出對方的話題 (文 3)。(P35、上巻)

ここで注目するところは、φ2に対応する「他」は省略できるが、φ1とφ3に対応する「他」の前に、

「Kizuki」以外の登場人物が出現することによって、その 2 つの「他」は省略不可能になる。例えば、φ1に対応する「他」と指示物「Kizuki」の間に、「他人」という登場人物が挟まれているため、「他」を省略すると、文章の筋書きが曖昧になる。φ3に対応する「他」と文 2 の「他」の間に、「直子」、「僕」という登場人物が挟まれているため、φ3の「他」を略すると、文法上では間違っていないものの、読者が文章を読む際、例 (12) のように、先頭の文 2 まで再度読み直さないと、登場人物の相互関係が理解しにくい傾向が見られる。今回のデータでは、登場人物の数が 3 人 (以上) の場合は日本語テキストではゼロ照応という形式を取るのに、中国語テキストでは三人称指示「他/她」に訳されている用例は 11 例しかない。

その理由は登場人物の数が 3 人 (以上) の場合、人物像が複雑になるため、日本語、中国語両言語とも 1、2 人の場合より省略困難になるためだと考えられる。ただし、日本語テキストでの三人称指示の使用頻度は、やはり中国語より少ない傾向が見られる。

4. まとめ

以上のことから、日中文章における三人称指示の相違点がいくつか明らかになった。まず、日本語テキストでは三人称指示の使用回数が中国語テキストより少ないことが分かった。つまり、日本語テキストではゼロ照応 (φ) という形式で文章の連続性が保障できるのに対し、中国語テキストの場合は三人称指示を用いないと、原文の意味と異なり、文の連続性が成立しない可能性があるということが分かった。さらに、中国語では三人称指示が使われているのに、日本語ではゼロ照応という形を取る用例を場面ごとに言及された登場人物の数に分けて、日本語のゼロ照応が成立する環境について検討した。その結果、登場人物が 1 人の場合、日本語、中国語両方とも三人称指示が省略しやすいということが明らかになった。そして、登場人物が 2 人の場合に、日本語では授受動詞の使用によって、ゼロ照応ができるが、中国語では「他/她」を使用しないと、意味が通じなくなる可能性がある。最後に、登場人物が 3 人 (以上) の場合、人物像が複雑になるため、日本語、中国語両方とも三人称指示が省略しにくいということが判明した。

5. 今後の課題

今回の結果は限られたデータによるもののため、多少作者のスタイルや訳者の手法に影響され、偏りが生じる可能性がある。今後は、より数多くのデータを収集して分析していきたい。また、登場人物の数が 2 人の場合、ゼロ照応 (φ→他/她) が多い理由について、授受動詞以外の要素をさらに観察することにより、日中の三人称指示の対応関係を明らかにしたい。

注

1. Halliday & Hassan (1976) は結束性を示す手段として、指示、省略、代用、接続、語彙的結束性を挙げている。

引用文献

- 今井敬子 (1992) 「ゼロ照応」の日中対照—主題化との関連で『信州大学教養部紀要』 89-98
佐久間鼎 (1951) 『現代日本語の表現と語法 (改定版)』厚生閣

- 徐赳赳 (1990) 敘述文中'他'的話語分析『中國語文』第五期 323-331
陳平 (1987) 漢語零形回指的話語分析『中國語文』第五期 363-378
堀井令以知 (1978) 『人称代名詞論』国語学・日本語学論説資料 7-4 146
Halliday, M. A.K. & Hassan, R (1976) *Cohesion in English*. Longman

おう しょうよう／お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科 比較社会文化学専攻